

阿川鐵膽 あがはた 貿易業者。元治元年長門國萩生れ、明治二十二年七月二十日歿（二八六四—一九〇〇）。本名大良。郷儒馬島春海の胤て漢學を修め、福岡に遊學。上京して回縣入手塚猛昌經營の庚辰新誌社に入社、のちいへ兄弟と善ならずとも交情を結んだ。石川半山と出會ふ。明治二十六年社を辭して渡清、北方事情を視察して「支那實見録」を「庚寅新誌」に寄稿。更に香港を経て暹羅（現タイ國）のバンコックに渡り、半山の國內での奔走とあつて、品川彌二郎、資本家森村市左衛門等の贊同を得、同地に圖南商會を設立した。また暹羅事情紹介のため商會名義で『暹羅王國』（明治二十年刊）を半山と共編。三十二年暹羅内地探検を試み、「暹羅東海巡遊記」を『東京毎日新聞』に連載。引續き馬來半島探検中病を獲つて、新嘉坡スラングーンの日本人共同墓地に葬られた。

歿後十年、半山編『鐵膽阿川大良』（明治四十三年六月—四十二年正月）并茂一刊）が出版せられ、前記紀行一篇の他へ自敘傳とも見る（半山序）書翰四十通を収録。

